

## 週刊 リスクマネー経済新聞

## 先週の振り返り

## リスクマネジメント愛媛

## ◆ 先週の株式&amp;為替相場（前週末比）

日経平均：39,894円（-387円）/ドル円：157.21円 / NYダウ：42,732.13ドル（-260ドル）

## ◆ 大納会（最終取引日）の日経平均株価は4万円越えとはならなかったものの、大納会終値として最も高かった1989年の3万8,915円を35年ぶりに更新しました。年末にかけて円安・ドル高が進行し輸出関連株が買われたほか、2025年相場への期待感など複合的な要因で買われました。

⇒ 日本株式市場が休場だった年末年始の米国株式市場では軟調な展開となりました。インフレの長期化に対する懸念などから1月2日まで下げが続いたのち、3日ようやく反発しましたが年末より260ドル安となっています。昨年12月から続く上値の重さは払拭できていません。

【資金の流れ】 ディフェンシブ株 ⇒ 輸出関連株 円 ⇒ 米ドル

## 注目トピック

## ◆ 2025年度政府予算案で歳出規模は過去最大に！？ …税収も増加見込み

政府は12月27日、2025年度予算案を閣議決定しました。一般会計の歳出総額は115兆5,415億円となり23年度当初予算を超えて過去最大となりました。今後の予算成立までの流れや問題点などをまとめます。

## 【歳出、歳入ともに過去最高を更新…】

2025年度予算案では、歳出全体の約3分の1を占める**社会保障関係費**（医療、年金、介護など）は**38兆円超**で過去最大となっています。25年8月からの高額療養費制度見直しなど歳出抑制の改革も行われるものの、**高齢化などの影響による歳出拡大圧力**は大きいと言えます。一方で税収も**78.4兆円**となり、6年連続で過去最高を更新します。物価上昇による**事実上の課税強化**（＝インフレタックス）の影響に加え、今年度実施された定額減税（所得税と住民税の減税）を25年度は実施しないことなどが税収増加の要因となります。

## 【成立には野党の調整が必要…】

政府は同日、年収103万円の壁引き上げなどを盛り込んだ**税制改正大綱**も閣議決定しています。25年1月の通常国会に予算案と税制改正関連法案を提出することになりますが、現在は**少数与党による政権運営**のため、成立には**野党の主張取り込み**など調整が必要になります。その結果予算は膨張し財政赤字は拡大する見込みです。これに対して十分な財源確保がなされない場合、**その穴埋めは国債発行**で賄われます。野党が新たな歳出増加を求める場合には、他の歳出削減や新たな増収策など、**財源確保の案を示すことが重要**と言えます。

## 今週の話題

## ◆ 「辰巳天井」株式相場のアノマリー

## 【解説】

株式相場の干支のアノマリー（経験則に基づく相場の規則性）では**辰巳天井**と言われ、巳年は**相場が上昇して天井を付ける傾向**があるとされています。そうなればここ数年の株高が**大きな転換点**を迎えるかも知れません。

## 【ポイント】

バブル期の最高値をつけた1989年も巳年でした。歴史的な上昇を記録した23年（7,369円、28%）の勢いを引き継ぎ上昇した24年（6,430円、19%）に続いて、**2025年も上昇が継続するとの予想**が多くなっています。

## 【今後の影響】

市場関係者へのアンケートでは25年の日経平均の**高値予想は4万4,156円**、強気予想の背景には**賃上げと物価の好循環が強まる**ことへの期待感があります。そうした意味でも今年の春闘による賃上げ率には要注目です。